

猫と彼

東京女子高等師範學校教授 理學士 久米 又三

三六

昨春始めて幼稚園を知つた彼は、幼稚園を又さぬ満足なところを感じたらしい。ところが或る日、如何にも不服な顔をして歸つて來た彼は、幼稚園には猫が居ない云ふ。なる程幼稚園には猫は居まい。だが小鳥が澤山居るではないか云つても、其の猫は異ふ云つて承知しない。終には此の猫を幼稚園へ持つてゆくと言ひ張りだした。

もさ／＼此の猫は彼にあてがう積りのものではなかつた。彼の妹は彼に比べるさいくらか内氣の方である。彼が部屋一杯に玩具を擴げて遊ぶ折でも、彼女は片隅で人形を立てたり坐らしたり、庭から持つて來た木葉を並べたりして小じんまり遊ぶ。そんな彼女が、隣家の小猫を如何にも愛らしさうにするのを見た此の家の主が、ふみ思ひついで小猫を知人に頼んだのである。愈々小猫が手に入つたさ

云ふ知らせを聞いて、今に小猫が來るかも知れないと豫告した所、先づ反對の聲を擧げたのは彼であつた。彼は犬は是非欲しいが、猫は嫌ひだ云ふ、之に反して彼女は非常に喜んで、やがて來るかも知れない小猫が、どんな毛色で、大きさはどの位で、又顔は可愛い、かぎうか等を大變氣にかけた。

ところが愈々猫が來て見るに、意外な事には、先づ飛びついていつたのは彼女でなくて彼であつた。やつと乳離れて哀れな聲で鳴く小猫は、彼の勢に怖れて机の下にもぐり込む。彼の勢に比べるに、小猫を遇する彼女の態度は頗る遠慮勝ちである。遠くから眺めて居る彼女の眼には、少しの親しみをも見せない。突然彼は小猫の名を「ミーミー」にする事を提議した。繪本の小猫が「ミーミー」だからであらう。

此の名は直に採用され、此の名は特に彼女を喜ばせた。

彼女は「小猫のミーミー」を口吟んで飛び廻つたが、それでも別に小猫に親しみを見せない。

やつと乳離れた小猫の食餌は、頂度離乳期の幼児の場合と同じ様に、仲々難しいものに違ひない。不幸にも小猫の食餌問題は充分な討議を経なかつた。其の爲であらうか、小猫は屢々腸を害し、害する度に粗相した。餘り粗相が度重なるに、家人も之を不快に思ふし、小猫の身邊一時急を告げたこともあつた。其にも拘らず、彼の猫に對する關心は益々積極的になつてゆく。或る時、部屋を出たきり、餘り歸りが遅いがと思つて居たら、玄關側の土間に停んで居る彼を見受けた。憶面もなく顔を地面に接近させて、科學者の様に何物かを注視し、しきりに吟味して居る様子である。彼は祕かに猫の排泄物に科學的興味を覺えたりしい。知らぬ間に此の様な吟味を度々試みたさ見える。排泄物に對する科學的記載事項が、驚くべく簡明に彼の頭腦に銘じて居る證據は、其の後折にふれて出る言葉の中に、眞に追つた表現が現れることでも判る。

かうして猫と共に生活する日が重なるにつれて、彼は又彼自身と猫とのアナロジを巧みに發見して行つた。此のアナロジは比較解剖學者の様に正確である。猫が爪で疊をかけば、彼も亦疊をかいてみる。猫が舌で毛を舐め、舐めた手で顔をふくも、彼も亦手で顔を拭いて見せる。お臀に緒を下げて、猫の尾を稱し、寢床に入れば身體を丸め、手で鼻をかくして寢子だも云ふ。食卓では屢々、舌で水を飲んで見せて、此の家の主の吐りを買ふ。たま／＼此の様な時である、彼が幼稚園に對して猫の不満を漏したのは。

以上の様な意味で彼が猫三昧に入つて居る限りは、此等の仕事が彼に勞苦を與へる筈がない。此の家の主も、之を見て見ぬ振りをする事が出來た。ところが如何なる理由で、彼が之を獨斷し、然るべく信じて疑はないのか不明であるが、猫が來た其の日から、猫は彼の配下に從屬するものとして居る。此の信條が屢々彼を悲劇に導くのである。多くの子供がする様に、彼も亦猫を抱きしめる。猫は此の強制から脱したために悲鳴を上げ、身をもがく。餘りにこれが度重きなれば、此の家の主も之を見て見ぬ振りに出

來ず、十度に一度は猫に肩を持ち、猫の解放を彼に要求する。もきより彼は猫に對し、此の家の主に對していたく不満である。然しながら彼も亦思ひ返して見る時が來るらしい。或日彼は積木を集めて家らしきものを造り上げた。彼は猫を願て、此の家が猫のために造りしものであること、彼の希望は猫が此家にまどまつて、彼等と共に遊び仲間たらんことである。こき等を、言葉を盡して懇願する。然るにも拘らず猫は後肢を蹴つて立ち、積木の家を破壊して飛去つた。彼は之を大なる侮辱を感じたであらう。彼は顔を伏せて啼き、涙を流して此の家の主に訴へた。其の聲は『自分はいかゞ猫に對して讓歩し、猫に對して禮をつくして懇願するに拘らず、猫は自分の哀れむべき心情を察せず。猫は實に不埒である、又常に猫に對して同情を示す此の家の主も不埒である。責任は此の家の主にも在ることであるから、此の場合猫を連行して適當な所置をなせ』と云ふにあらしい。此の家の主も彼を猫の前にして、徒にほごす術を知らず、只々目前の葛藤を一つの悲劇と觀する外になかつたのである。

こゝに於て此の家の主も祕かに猫に向つて言ふ。猫よ猫よ、汝何の因果あつて然かく彼、人の子を惱すや。念ふに汝の祖先は遠く異國の地にあつて、光榮ある歴史を有せり。荒漠たる北アフリカの野、ナイルの谿谷に、始めて汝の祖先が人の子エヂプトの民と交りしより三千年、汝の祖先は其の特技に依つて厚く保護され、神の如く崇めらる。汝の祖先は其の光榮のために故郷を出でず、爲に汝の名はイスラエルの民に知られずして聖書に出でず、ローマの民汝の名を知らず、ために汝の名はイソップ寓話に現れず。されど汝等最高の幸福は、エヂプト時代を以て終れり。跡めよ。世紀始つて、流浪の旅に出でし汝の祖先は、汝の好敵風族の流浪を歩を一にせるこきは、せめてもの汝の幸福と云ふべし。汝の祖先此の東洋の島國に來りしより約一千年、汝今日こゝにあつて斯く子に弄せらる、一に運命なりき。

醜つて此の家の主、彼に向つて祕かに言ふ。汝人の子、何の因果あつて、しかく猫のために悩むか。念ふに汝の祖先(原始民族)の生活は、必ずしも今日の如く幸福ならず。

荒野に洞窟をうがち、湖上の荒屋に依つて僅かに自然の難を避けたり。汝今日あるは一に汝の祖先の苦闘に依る。汝の祖先は苦闘の中に自然を洞察し、自然に應化し、始めて文明の基礎を置けり。汝今日猫に惱むは宛も祖先の苦闘に似たり。よし汝好む儘に猫ミ苦闘せよ。

彼不幸にして町に育ち、自然に親しむ充分な機會を持たない。偶々得たる小猫が彼の弄ぶ所なる。彼も恐くは猫を通じ、彼相應の力で自然の壓力を感じてゐるこゝであらう。此の家の主の希望する所も實は之であつた。かくして秋は去り冬が來た。彼も猫も共に爐邊を慕ふ日が多い。彼は遠き異國より來れる猫の「寒がり」を發見し、蒲團を丸めて家を造れば、猫は喜々として其の中に入る。彼は入口に耳をあて、猫の喉のゴロ／＼を聞いて得々とする。兄の感化を受けた彼の妹も、又徐々に猫を顧る日が多くなつた。此の分では、彼が日頃求めて止まない犬も、遠からず知人に頼まなければならぬ。

保育實習科生徒募集

(官報抜萃)

本年四月入學せしむべき保育實習科生徒を募集す其要項左の如し。

昭和十三年一月

東京女子高等師範學校

一、募集人員 凡そ二十四名

二、學資 學資は總て自費とし授業料年額金五十五圓を徴收す。

三、選抜試験及身體検査 選抜試験は二次に分ち之を施行す。第一次は全志願者に對し之を行ひ、第二次は第一次に合格したる者に對し之を行ふ。

第一次試験

國語(解釋、作文) 理科(動物) 圖畫(自在畫)

第二次試験

音樂(唱歌) 身體検査並に口頭試問

四、出願期限 二月一日より同二十八日まで

五、試験及検査期間 三月十一日同十二日の二日間

六、出願受付 試験及検査場所

東京市小石川區大塚町 東京女子高等師範學校

右の外生徒募集に關する詳細は之を記載せる印刷物に就き承知すべし此印刷物は直接本校に就き受領するか又は參錢切手を貼附せる封筒を添へ本校に對し郵便を以て之を請求すべし。